

郷土にまつわる歴史講座
(協力…明治文庫の会)

昭和20年7月4日未明 高松大空襲

～1,359人の御霊の叫び～

元高校教諭、元高松市平和記念館職員

講師 浄土卓也氏

日時 令和7年9月14日(日)
午後1時30分～3時

場所 マルタス1階
多目的ホール

定員 60人

※予約不要・先着順

料金 無料

問合せ 丸亀市立中央図書館
0877-22-3746



昭和 100 年の中で県下最大の災禍は、昭和 20 年 7 月 4 日未明の高松空襲である。僅か 2 時間ほどの事で、自然災害等と比べいかに凄まじい災禍であるか！

戦争が引き起こす結果を後世に伝える必要性を強く感じずにはいられない。

(高松空襲の被災規模)

死者 1,359 人 行方不明 186 人 負傷者 1,034 人
罹災者 86,400 人 被害建物 18,913 戸(市街地の 80%
が焼失) 全焼 18,505 戸(内住宅 16,108 戸) 半焼 408
戸(内住宅 310 戸)

7 月 3 日マリアナ諸島を発進した B29・116 機は高松上空へ西方より進入、7 月 3 日夜 11 時頃、毎日のように発令されていた空襲警報がこの日も発令されたが、やがて解除。

日付が変わって 4 日午前 2 時 56 分、突然空襲が始まり、10 分程で市中心部は火の海になったが、爆撃は執拗に午前 4 時 42 分まで続いた。投下された爆弾は通常爆弾 24 t と焼夷弾 809 t。猛威を振るった焼夷弾は昭和 20 年 3 月 10 日東京大空襲で米軍が初めて使用。死者 10 万人の驚愕な被害が出た。米軍は怯むことなく夜毎各地の都市で国際法違反の市街地無差別爆撃を行なった。その延長に原爆投下。原爆を含む本土空襲の死者数は 56 万人に達する。(明治文庫)